

ツナガルカンケイ



2023 活動報告書



📌 P2 プログラム内容

📌 P3 2023年度の報告

📌 P4-5 受け入れ団体一覧

📌 P6-7 インターン生の活動風景

📌 P8-9 インターン生座談会

📌 P10 受け入れNPO・大学からの声

📌 P11 インターン生のアンケートより

NPOインターンシップとは？

横浜市を中心としたNPOの活動を体験出来るインターンシッププログラムです。
活動先は「福祉」「国際協力」など、多様なNPOから選ぶことができます。
NPOの想いと本気で向き合うインターンシップです！

具体的な流れ

Step 1 NPOと学生のお見合い会

参加学生と受け入れ団体が直接話することができる機会です。様々な団体を見て、活動したい団体を選びます。



Step 2 事前研修会

実際に活動するにあたって、インターンシップに必要な基礎知識を学ぶ研修会を実施。参加学生同士の交流も深まります。



Step 3 志望先の調整&面接

志望団体が決まったら面接にてマッチング！活動期間や内容について具体的に打ち合わせます。



Step 4 活動体験

各団体に分かれ、活動を始めます。活動中には、他の団体へ行った学生同士の交流も開催。



Step 5 定例会 (※長期生のみ)

月に一度インターン活動でのお互いの悩み相談や目標確認を学生同士で共有する機会。異なる大学の学生との仲も深まります。



Step 6 修了式・成果報告会

活動内容を振り返り、互いの成果を報告します。最後に修了書を受け取り、プログラムは終了です。



2023年度の報告

長期実践型

期間：3-6か月間(200～400時間)
時期：8-2月

短期体験型

期間：10日間(80時間)
時期：8-9月

参加者数
計49名

(長期:15名)

受入団体数
23団体

提携大学数
9大学

インターン生が、自分の「やってみたい」「挑戦したい」気持ちを大切に多くの学びや経験が出来ました！



NPOインターンシップ寄付・協賛のご報告

このNPOインターンシッププログラムは皆様のご賛同・ご支援により成り立っています。
皆様、誠にありがとうございました。

2023年度

寄付総額：¥301,695

ご支援いただいた方：29名

- ・3団体
- ・個人 26名様

目標金額を
達成しました！

ご協賛いただいた団体様

NPO法人アークシップ
認定NPO法人びーのびーの
NPO法人ピッピ・親子サポートネット

2023年度 NPOインターンシップ受け入れ団体一覧



NPO法人びーのびーの
子育て支援



NPO法人さくらザウルス
子育て支援



NPO法人グリーンママ
子育て支援



NPO法人
こども応援ネットワーク
子育て支援



片倉うさぎ山公園
遊び場管理運営委員会
プレイパーク
(屋外の子どもの遊び場作り)



NPO法人
スマイルオブキッズ
病気や障がいのある
子どもと家族の支援



NPO法人リロード
自立支援・社会教育活動



障害者自立生活センター
IL・NEXT
障害者自立支援



NPO法人
みどり福祉ホーム
障害福祉、地域支援



NPO法人
地域生活センター
障害者福祉



公益財団法人日本野鳥の会
「横浜自然観察の森」
環境保全（教育・調査・管理）



NPO法人ぐらす・かわさき
就労継続支援B型メサ・グランデ

障害者福祉



コトラボ合同会社
「ヨコハマホステルヴィレッジ」
コミュニティ再生・起業



NPO法人かながわ外国人
すまいサポートセンター
外国人支援
(住まい探し・生活相談など)



NPO法人WE21 ジャパン
リサイクル・国際交流



国際協力NGO
Act for Child
国際協力



NPO法人
横浜市民アクト
まちづくり・市民活動支援



大倉山おへそ
まちづくり・商店街活性化



NPO法人アークシップ
まちづくり、アート



NPO法人
ビッピー・親子サポートネット
子育て・介護・障がい支援・
学齢期児童の居場所



NPO法人
教育支援協会南関東
子ども・若者の学び、体験を促進



NPO法人
横浜NGOネットワーク

国際協力



NPO法人
アクションポート横浜

中間支援、まちづくり

提携大学

桜美林大学、神奈川大学、
関東学院大学、専修大学、
東海大学、フェリス学院大学、
明治学院大学、横浜市立大学、
横浜商科大学

2023年度 インターン生の活動風景

長期実践型インターン生の活動

外部協働イベント

「こども電が関見学デー」では検定体験ブース内で「だがしや学校」の運営スタッフとして参加し、参加者さんとのコミュニケーションを大切にしながら、みんなでブースを盛り上げました。



放課後学び場事業

(中学生向け学習支援)
港北区内の3つの中学校を対象に学習支援活動を行いました。
秋からは主にこの活動を取り組みました。



8月

10月

11月

12月

2月

地域青少年活動拠点(M-base)のマンガ・プログラムが地域共催でのイベントにおいて、オリジナル缶バッジ、しおりなどを販売し、そのサポートを行いました。



その学校内だけでなく地域のケアプラさんなどをお借りしての活動もあり、場所の雰囲気も、参加してくれる子どもたちも様々な中、ただ勉強するだけでなく、その子ども自身に寄り添うことを意識し、活動しました。

短期体験型インターン生の活動



誕生日会

通所されている方の誕生日会をしました。近くのスーパーに誕生日会の材料を買いに行きました。施設の中にいるだけでなく、外に出かけることで地域の方と交流ができます。



水遊び

施設の庭で水風船やビニールプールなどで水遊びをしました。とても暑い日だったため、皆さん気持ちよさそうでした。私は水風船づくりをお手伝いしました。

1日目

2日目

3日目



昼食

昼食はその方に合った形(ペースト食、一口サイズ等)に準備します。支援が必要な方には食べやすいよう支援していきます。その方にあったペースで食事を進められるよう意識しました。

1日の活動の流れ

9:00	集合
10:00	朝の会
12:00	昼休み
	午後の活動
14:45	帰りの会
15:00	終了

教育支援協会南関東
長期実践型インターン生



桜美林大学 3年
岡部凜さん

Q1. NPOインターンシップ参加理由

大学の授業を通し、社会問題やボランティアなどについて学び、NPO という存在を知りました。
実際の経験を通してNPOでは実際どんなことが行われているのか学べる、また様々な人と出会い成長するチャンスだと思い参加を決めました。

Q2. やりがいのあった活動は？

放課後学び場事業での活動がとても印象に残っています。本当に来てくれる子たちは多様な考え方をそれぞれ持っていて、接するにあたり他のスタッフさんの関わり方などを参考にしながら、常に同じ目線で物事を考えてみるということを意識し、成長しながら楽しく活動することができました！

Q3. インターンを経験して変化したことは？

この経験を通して、周りの方々の色々な思いに刺激をもらいながら、そこから些細なことでも自分は何ができるのか考え、それを行動にすることができるようになり、自分に少し自信が持てるようになりました。

Q4. インターンの魅力とは？

人とのコミュニティがとても大きくなり、様々な考えに触れることができること、それと同時に自分の思いも共有する機会が増え、自分自身に対しても深く見つめ直し、成長できるのがこのインターンの魅力です！

Q5. 団体の方へメッセージ

夏から約6ヶ月間本当にお世話になりました。
皆さんのサポートがあったおかげで楽しく活動期間を終えることができました。また、皆さんからもらった温かい言葉や思いを大切に、これからもっと成長できるように頑張ります。
本当にありがとうございました！

Q6. これからインターンを始める方へのメッセージ

とにかくたくさんの新しい出会いを楽しみながら活動してくれたら嬉しいです！1人で絶対に抱え込まないで、周りの人と協力し合いながら色々なことに挑戦してってほしいです。
心から応援しています！

みどり福祉ホーム
短期体験型インターン生



専修大学 1年
長岡胡桃さん

Q1. NPOインターンシップ参加理由

高校生のころに見たテレビ番組でNPOの活動が取り上げられており、NPO団体に興味を持つようになりました。
NPOについて詳しく学べ、また、経験もさせていただけるということで自分の将来について考える良い機会だと感じ、参加を決めました。

Q2. この団体を選んだ理由は？

以前から福祉に関して興味があり、障害を抱える方とその家族についてより深く知りたいと思い選ばせていただきました。また、団体紹介のスライドに写っている方々が楽しそうに過ごしていた姿に魅力を感じこの施設で実習がしたいと思いました。

Q3. インターンを通じて得たことは？

普段生活をしていると目を向けなかった場所、例えば低めの段差やエレベーターの設置場所等にも目を向けるようになりました。そして多くの人が楽しめる場所はどこであり、どのような内容なら取り残される人を減らせるのかということを考える機会が増えました。

Q4. インターンの魅力とは？

実際に働いている方の働きを学べたり、様々な方と考えを交わすことができたりするため、自分の考えに深みが増し、少ない期間でも多くのことが得られるところです。
自分の将来について深く考える機会にもなります！

Q5. 団体の方へメッセージ

10日間という短い期間でしたが大変お世話になりました。
このインターンに参加するまでは障害を持つ方と関わる機会がなかったため不安でしたが、皆さんが優しく分かりやすく教えてくださったことでとても内容の濃い経験をすることができました。また、皆さんの温かくも力のある支援の姿勢が自分の在り方を考え直す機会になりました。
充実した経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

Q6. これからインターンを始める方へのメッセージ

始める前は不安だと思いますが、終わった後は得られたことの充実さにやってよかったと感じられるはずです！楽しみながらも真剣に向き合い、多くのことに触れてってほしいです。
応援しています♪

2023年度 インターン生座談会

2024年1月、NPOインターンシッププログラムに参加した学生を交え、座談会をオンラインにて行いました。今回は、NPO法人こども応援ネットワークで短期インターンをした前田さん（神奈川大学1年）と、横浜NGOネットワークで長期インターンをした堀米さん（中央大学2年）に参加していただきました。（インタビュアー：プロジェクトスタッフ藤島）

前田さん



堀米さん



藤島



藤島：まずお二人がこのインターン先に参加した理由をお話いただきたいと思います。

堀米：私はNPOの存在を知っていたので、インターンじゃなくても、NPOで何か今年1年やりたくなって思って検索した時に、1番上に、とっつきやすそうなプログラムが出てきたので、申し込んでみようかなと思いました。

来年は就活とか、企業インターンがメインになっちゃうかなと思って、今年はそういうのを気にしないでできる最後の1年かなと。

藤島：横浜NGOネットワークさんを選んだ理由はあるですか？

堀米：国際政治の勉強をしていたり、元々人権問題とかに興味があって。国際交流まではいなくても、アプローチができる団体があったらいいなって思っていたら、ちょうどぴったり。横浜NGOネットワークさんでの活動は、こうした活動をしている方々とお話ができそうで、1番いいなと思いました。

前田：私はNPOにいつか就職したいなっていう思いがありましたが、どうやって実現できるのか全く分かりませんでした。そんな時大学の授業でこのインターンシップのことを知り、「あ、もう今できるんだ、だったら今やろう」と思って、その時すぐ参加を決めました。

子ども応援ネットワークさんは、「障害のあるなしに関わらず、子供たちが地域で自分らしく生きること応援しているNPO法人」を掲げていて、自分がやりたいことと近い団体さんだったので選びました。障害とか国籍とか関係なく、みんなでなんか一緒に暮らせるように何を大事にしてるのかなっていうのを、実際に知りたいし、関わりたい、一緒にやりたいなって思いました。

藤島：次にこのインターンシップで印象に残ったことがあればぜひ教えてほしいです。

堀米：私はインターンで関わった人たちの活動への熱心さというか、自分の関心があることへの追求をすごいされている姿っていうのが、印象に残っています。

企画したイベントの中で、平和に限らず、いろんな団体の方が自分の活動を広めるためにお話しに来てくださって。皆さん一生懸命、人生かけて自分が問題意識を持てることへの解決に動いてる姿っていうのがすごい素敵だなと思って、自分は将来どんな仕事をするかまだわからないんですけど、将来自分が仕事する際には、そういう姿を思い出して、頑張りたいなって思いました。

藤島：なるほど。確かに逆に何になろうってまだわからないからこそ、1つのことに取り組んでる姿って、すごかったいいなって思いますよね。

堀米：はい。しかも団体の方は、私のイベント土日が多かったり、スライド用意していただいたりとかしたんですけど、「仕事早く切り上げてとか、徹夜で作ってきてくれて、私が企画したことに本気で向き合ってくださるのもすごくありがたいし、熱意がすごいなって。」

前田：私は実際に企画を考えて実行した時です。普段イベントをするときは対象年齢を決めるらしいんですが、私は赤ちゃんでも、何歳でも、一緒にできるような「風船で遊ぼう」というイベントを考えました。当日は危なくないかとか、楽しんでくれるかとか不安でしたが、たくさん本当に来ていただいて、赤ちゃんからちょっと走り回れるような子どもまで、楽しんで参加してくれたのがすごく印象的で、笑顔で帰ってもらえたのが嬉しかったです。

藤島：イベントで「年齢を区切らず」の工夫で多分苦労したんだろうなと思うんだけど、どうやって解決したんですか。

前田：たくさんアドバイスをもらって、年齢に合わせて風船を工夫しました。私が企画にあたって、「対象年齢を区切りたくない」ってスタッフさんに言ったら、「それだと危ないから、工夫が必要だね」っていう話になりました。スタッフさんに相談したり、利用者さんにも「何が好きですか？」とか「何が危ないですか？」と聞いて。風船の紐の高さを変えたり、ボールの絵を描いたりして、区切らずに、でも危なくないようにスペースを作りました。

藤島：すごい、親御さんとも話して。インターンの中で普段から会話しているからそういったことも聞ける関係になっていったんだと思いました。
私も去年はインターン生だったので、この活動って多分自分から動かないとお2人のようにならなかったんじゃないかなと思います。自分でやろう、やりたい！って声があれば、応援してくれる人とか、こんな熱意で活動してる人がいるってことも知らなかったと思うし、そう感じる場に居れるってことがとても素敵なことだと思います。

最後にこのインターンの経験で気づいたこと、活かしたいことがあったら教えてください。

堀米：イベントでの講師の方とのミーティングなどの時に、話す前に事前準備をしておくとか、楽しくていい経験だったので、活かしていきたいなって思いました。名刺を交換してとかから入るような関係の方と喋るのが初めてだったので、事前準備をしっかりと、この部分だけは相手の方と話して決めるとか、考えて台本用意したりとかってというのが大変だったんですけど、楽しかったです。

前田：私は、笑顔ってすごい価値があるんだなって気付きました。こども応援ネットワークさんって、子どもだけじゃなくお母さんや利用者さん同士が不安なことや日々の何気ない会話を楽しんでいて。いつも帰る時の親御さんは安心した顔でいて、「あなたもそうなんですね」みたいな、そういう場所ってすごく大事なんだなって思いました。この笑顔をもっと増やしたいなって気持ちになれて、もっと夢に向かってもっと頑張ろうって気持ちになりました。

藤島：場所とか環境って大事ですよね。きっとインターン先が話しやすい雰囲気がある場所だったから、お2人もやりたいことを言えたと思うし、利用者さんやイベントの参加者さんとも話せたんだと伝わってきます。
そうだと、来年のインターン生にアドバイスとかありますか？

前田：私はイベントでこれやりたいですって伝えたら、団体の方がすごくサポートや応援をして下さったので、やりたいことを口に出すっていうのを大切にすると思います。

堀米：口に出すという話で、私も初対面の方とか、自分から話しかけに行くことが大事ななと思います。今後多分会うことないかなっていう方でも、とりあえず自己紹介しに行って。運がよければ覚えてもらいたいぐらいの。何か喋りに話しかけに行くって、最初苦手だったんですけど、できるようになってよかったなって思うことの1つで。

藤島：ありがとうございます。お二人ともお疲れ様でした。これで座談会は終了したいと思います。ありがとうございます。

あなたにとって、NPOインターンシップとは？



「夢への第一歩」

インターンを通して、一歩踏み出す勇気を身につけられたと思います。「やってみよう」から、「やってみる」の一歩は大きな一歩でした。利用者さんとお話すること、子供たちと全力で遊ぶこと、スタッフさんと共に活動を行うことなど、インターンに参加していなかったら得ることが出来ない経験でした。

特に子供たちの笑顔がみれたのは、夢を実現するための糧になりました。この笑顔を増やせるように夢に向かって頑張ろうと思います。



「刺激」

インターン中に携わったイベントを通じて、沢山の素敵な方に出会うことができました。自分と同じくらいの学生や、中学生の子が社会問題に対して一生懸命活動していることを知りとても刺激を受けました。特に別の団体へインターンしている学生との交流が出来たことが自分にとってモチベーションになりました。

イベントの企画に際しても、他の方の意見を聞いて新しい発見に繋がることが沢山ありました。私にとって刺激が沢山のインターンでした。

受け入れ団体・大学からの声

〈受け入れ団体様から〉

NPO法人リロード 池田正則 様

私たちの団体では、貧困状態や不登校・ひきこもりなどの困難な状況にある子ども・若者をサポートし、社会参加が可能となるようにしていくことに取り組みと共に、社会参加した場で他者と体験・経験を経て、人と人との関係性を構築し共生する地域社会づくりに取り組んでいます。インターンで参加した学生の方々は、本当は身近にいるのになかなか出会えていない困難を抱えている同世代～上の年齢と共に過ごし、関係性を持って社会参加に結び付けていく取り組みは、自分の人生や人との関わりを考える機会にもしてくれていました。「不登校」「ひきこもり」「貧困世帯」「ヤングケアラー」「養育環境の良くない世帯」というような自分たちの世界とは別の世界の『名称』でなく〇〇さんという人として接することを学んでくれたと考えています。

NPO法人 ピップ親子サポートネット 友澤ゆみ子 様

当法人は「働いていてもいなくても預かる保育園」を作りたいという思いで設立。目の前のニーズに応え活動する中で、未就学児から学齢期、そして障害があってもなくても共に育つ場、歳をとっても安心して住み慣れた家で暮らせるための介護保険事業、フードパントリーや夕暮れ食堂などに繋がり、各拠点が地域に開かれた場となることを目指しています。また日々の活動から見える課題を解決するために、他団体と連携して制度提案活動にも取り組んでできました。

こんな私達の活動を体験してみたいというインターンシップ生の皆さんとの出会いは、自分たちの事業のあり方にも新たな気づき生まれ、共に未来をひらく貴重な時間になっています。

〈提携大学ご担当者様から〉

フェリス女学院大学 ボランティアセンター 上條直美 様

2009年にNPOインターンシップが始まって以来、フェリスではボランティアセンターが参加させていただき、全学生を対象に募集しています。「何かしたいけど何をしたいかわからない」という学生にとっては、本プログラムで多様な分野のNPO活動を紹介してもらえることは貴重な入口です。参加し、体験し、仲間ができ、時には失敗し、学び、経験値が増える。そこにたくさんの大人のサポートがあり、とても素晴らしい仕組みだと思います。

（この仕組みが持続可能になっていくといいなと思っています。）

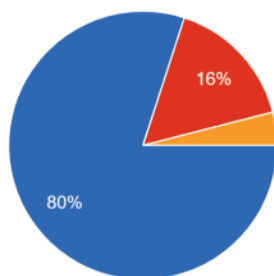
フェリスにはボランティア活動を履修につなげる制度があり、自主的な活動を「記録に残す」こともでき、モチベーションにもなります。本プログラムは履修につなげやすいので学生にオススメしています。

専修大学 キャリアセンター事務局 キャリア形成支援課 副島こころ 様

アクションポート横浜をはじめ受入先団体のみなさま、このような機会を提供いただき誠にありがとうございます。本学キャリアセンターでは、社会人と接する経験を通じて、「自己理解」「社会理解」「能力開発」の機会を得ることを目的としています。学生からは「インターンシップ参加後の学習計画を考え直そうと思った」や「大学生活を見直すきっかけになった」のような声をうかがうことができました。また、活動期間中に課題に対し、工夫を凝らしていたことが報告会の様子からも感じることができ、大変嬉しく思います。経験から得た「気づき」や「学び」を活かし、次の行動へとつなげていただきたいと思います。

2023年度インターン生のアンケートより

参加者の満足度アンケート



- 満足
- どちらかと言えば満足
- どちらかと言えない
- どちらかと言えば不満
- 不満

- ・ 様々な活動をさせていただき、自分が地域作りの一員であると実感することができたから。
- ・ 利用者さんとの関わり方やスタッフさんたちの仕事に対する姿勢を間近で見ることができたから。また、今回インターンシップに参加してことで自分の得意なこと、苦手なことがわかったから。
- ・ バイトや学生生活では、体験できない社会経験や交流ができたから。
- ・ 自分たちのやりたいことを実際に行うことが出来たから。インターン先の方に沢山支えてもらったり、アドバイスをもらいながらできたから。

感想ランキング(複数回答可)

- 1位 いままでやったことがない経験ができた (88%)
- 2位 NPOや民間非営利組織への関心が高まった (64%)
- 3位 受け入れ団体への関心が高まった (56%)
- 4位 地域活性化やまちづくりへの関心が高まった (52%)

・ 自分でNPOを見つけるのは大変ですが、お見合い会などで様々なNPOから選ぶことができ、良かったです。インターンでもたくさんのことを学ばせていただきました。

・ 貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございます。このインターンシップを得て、スキルや自信を身につけることができ、将来に関して向き合うことができました。

・ 私たち学生の為に学びの機会を与えてくださったこと感謝しております。今回のインターンを通して社会で暮らす人のことについて新たに知ることができました。今後も機会があればNPO団体の活動に参加していきたいと考えております。

・ 事務所に行き、スタッフや企業の方々とコミュニケーションを取りながら仕事をするという、普通に大学生をしていたらできないような貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。

・ やって終わりにするのではなく今回学んだことをまた別の機会に活かしていけるようにします。ありがとうございました。

・ この度はインターン生を受け入れてくださりありがとうございました。国際協力についてまたマンマーについてたくさんのことを学ぶことができました。今後の行動について意識改革することでもできとても貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。



発行月 2024年3月
 発行元 NPO法人アクションポート横浜
 編集 高城芳之 伊澤玲奈 小川楓人 丸山穂乃実 藤島美聡
 URL <http://actionport-yokohama.org>

ご支援いただいた団体様



ピッピ・親子サポート
 ネット